



防災学習をすすめていきます

1年生では総合的な学習の時間に『防災学習』を行っていきます。南海トラフ巨大地震が30年以内に起こる確率が70～80%と予測されています。もし大規模な災害が起きると、小学校や中学校が避難所になります。もし避難所になったら何が必要か、どんな人が避難してくるのかを考えることを通して、生徒たちの防災・減災への意識を高めていきたいと思えます。



昨日の6時間目はその最初の授業として、東日本大震災について学習しました。地震発生時や津波が押し寄せる様子の映像を見て、どのような被害があったのかを学びました。また、『大川小の悲劇』『釜石の奇跡』と呼ばれる出来事を通して自分たちと同じ中学生が当時どのように行動したのかを知りました。

次回の総合的な学習の時間では、実際に東日本大震災を現地で経験された方を講師にお招きして、震災当時の街の様子や自らの経験を語っていただきます。貴重なお話を聞くことを通して、中学生として災害時に何ができるのか、防災・減災について深く考えるきっかけとしてほしいと思えます。

ご家庭でも地震や水害が起こった場合の備えや、避難の方法、家族の集合場所など、防災・減災について話題にしていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

授業後の生徒の振り返り

- ・子どもでも自分から大人に提案したり、考えて行動したりすることができたことがすごいと思った。
- ・どんな時でも、いつ、どこで起きるか分からないから、日々日常で意識して過ごしたいと改めて感じた。
- ・災害が起こる前に、防災セットのようなもの（水、食べ物など）を用意しておいた方がよいと思った。
- ・地震などの災害が起きたら、指示を待つのではなく自分から考えて、行動することが大切だと感じた。指示を聞くのも大切だが、自分で考えてより安全なことを考えて行動したい。
- ・「私には関係ない」とか、「これまでにこういった事例がないから」といった理由で大丈夫だと思っでは絶対にいけないと思った。

